

<b>事業名</b>	<b>おぶちゃん連絡帳（電子@連絡帳）を活用した市民の健康長寿への取り組み ～市民と医療介護専門職間の「骨折・二次性骨折予防」情報連携～</b>
<b>ターゲット</b>	<b>運動機能の低下・加齢による筋肉量が低下している要介護予備軍の高齢者</b>
<b>コンソーシアム 構成団体</b>	<b>大府市、国立長寿医療研究センター、株式会社インターネットイニシアティブ</b>

**【現状分析】**

- ・ 要介護度別の認定者数が増加しており、全ての要介護度で増加。特に運動機能の低下・加齢による筋肉量の低下を起因とした骨折、二次骨折を起因とする要介護予備軍の高齢者が増加している。
- ・ 骨折に関する急性期治療を終えた後も、骨粗しょう症の治療を継続する必要があるが、大腿骨骨折1年後の骨粗しょう症治療率は約2割にとどまる。
- ・ 要因として、患者の約9割は地域の他の病院、診療所（内科、整形外科など）で治療を続けるが、現在は患者本人がそれぞれの病院に自身の骨折治療に関して「紙」を持参し、過去の治療に関して伝え継続治療を受ける必要がある。
- ・ 患者の中心は高齢者であり、診療所を受診した際に「紙」で過去の骨折治療の報告を行うことは困難な状況にある。

**【課題に対する取組】（ICT「おぶちゃん連絡帳」の活用）**

- ・ 急性期病院の医師から地域の医療介護関係者に対して、患者の退院情報・治療経過に関して連携し切れ目のないケアをICT「おぶちゃん連絡帳」を活用して市民（患者）に提供する。
- ・ 同じ市民（患者）の情報を医療介護関係者がデータ共有することで、率先して市民（患者）に声掛けを行い「骨折・二次性骨折予防（FLS）」の連鎖を地域全体で食い止める。

患者・家族から「この一と」を利用した【投稿画面例（歩行動画）】

